

市立幼稚園の民営化は良いことか！

港区では三先幼が対象、関係者が是非論議

「地域に根付いた公立幼稚園を民営化する必要があるのか」「市費削減というなら本当にできる部分で」「いや公立廃止による削減効果で新しい幼児教育を」……。橋下市長が主導する「市政改革」の一環で市立幼稚園の民営化（港区では三先幼稚園が対象）が示されたことに対し、港区では田端区長の主導で関係者による協議が始まっています。六月に区役所で開かれた「港区幼稚園関係者協議会」の論議から問題点を探ってみました。

「子は地域で育つ」「公私共存に問題なし」私立幼からも異論

◆市長主導の「市政改革」で

大阪市立幼稚園は、明治期から戦前にかけて
二十八園が設立され、市の幼育教育に携わって

きました。戦後は私立幼稚園も多く設立され、

現在では市内の幼稚園児の約八割が私立（二三
六園）へ、一割が市立（五九園）へ通い、市立

がない区も二つありますが、そんな流れの中で

も市立と私立が補い合い、力を合わせて市の幼
児教育を担ってきました。ところが平成二十四

年七月に橋下市長の主導で策定された「市政改革プラン」では「民間で成立している事業は民間に任せよう」といふ考え方を基本に、「市立幼稚園は私立幼稚園に比べて園児一人当たりの運営費が高いため多額の市費を投入しなければならぬ」「保育料などの保護者負担も市立と私立



→ 民営化の是非を含めて論議が行われた「港区幼稚園関係者協議会」＝6月、港区役所で

で差があるので不公平だ」だから全ての市立幼稚園を民営化しよう」といふのは保護者一入りに沿った柔軟な運営ができるし、保護者負担の公平性も確保できるし、市費削減で浮いたお金をサービス向上に回すこともできる」という方向を打ち出し、各区長に「施設や地域の状況をよく調べた上で、休廃止も視野に入れながら民間移管を進めなさい」「平成二十四年度中に計画(案)を作り、平成二十七年年度から順次実施しなさい」と指示したのです。

◆区長主導「関係者協議会」

これを受けて港区では田端尚伸（たがの）区長が「関係者の声をよく聴こう」と「港区幼稚園関係者協議会」を立ち上げ、六月から論議が始まりました。民営化の対象となっている区内唯一の市立幼稚園である三先幼稚園の園長と保護者代表をはじめ、港区に二ある私立幼稚園（みなと文化）の各経営者と保護者代表、児童養護施設（海の子ども園）の代表、小学校（池島、三先）の各校長らが出席し、オブザーバーとして区内選出の市会議員（奥野、西、藤田）、区役所から正副区長や担当（協働まちづくり支援課、大阪

市役所からも担当（こども青少年局、市教委事務司）が参加。五、十七日の会議では、主たるよつな意見が交わされました（発言趣意を踏まえて表現や順序を本紙で調整しました）。

◆公私共存の現状が良い

・子供は地域の愛情を受けて育つ。学びの芽を育てる大事な時期に、その時間をたっぷりとれるよつな教育を進めてきた。特別な支援を要する児童（以下「要支援児」＝編集部）も全て受け入れ、その子を含めた学びの場を作り、研修も積んできた。地域の小学校ともスムーズな連携・交流・接続がある。民営化してその内容が引き継がれるのか（公立幼稚園長）

・公立と私立それぞれに特色があり、気に入った所を選べるという今の共存状態が良い（公立幼稚園保護者）

・幼小中の連携という部分では大阪市教育振興基本計画を基盤に、教員同士の学び合いや情報共有の場があり、大きなハイプができていて、それが民でできるか疑問（公立小学校長）

・手厚い支援で受け入れも幅広く、困った人にも手が届くのが公立の良い所。また三先幼稚

園では幅広い年齢層の先生がおられて安心できるという保護者の声もある。そのように私立・公立それぞれ長い歴史と考え方があり、その仕組みを変えていくのはマイナス。全志を私立で受け入れるのは難しい。三先幼は三先幼としてあった方がよい(私立幼稚園長)

◆要支援児受け入れは？

・港区というある児童養護施設に対してただ一つの公立幼稚園である三先幼稚園は残してほしい。児童養護施設は地元の小中学校とも連携し、地域で互いに分かちあうことで成り立ってきた。そこへ市立幼稚園の民営化が急に打ち出され、戸惑っている。公立が廃止になった場合、心に傷を負った子、仲間に入れ込みにくい子を民間で受け入れてもらえないのか。行く所がなくなる。市費削減というなら本当に削減できる部分で、また各区に合わせた形でやってほしいというのが願いだ(児童養護施設)

・障害の程度や状況に応じたハード(施設など)とソフト(教育ノウハウ、人的加配や配置など)の両面の対応ができれば、民間での受け入れは難しいのではないかと(公立小学校長)

←市立幼稚園と市立小学校は連携して地域の幼少時教育に携わってきた(上は市立三先幼稚園、下は市立池島小学校)



・要支援児のうち受け入れていないが、もし公立が廃止になって受け入れた場合、年間一十万田前後という支援(横浜市・川崎市・千葉市など他自治体の例)は少なすぎる。正直難しい、難しい(私立幼稚園長)

・要支援児という認定を誰がするのかも含めて膨大な作業が必要。その割に支援が少ない。正直難しい、難しい。そこは手間のかかる部分を民間に任せたいという議論のものに問題があるのではないかと(私立幼稚園長)

・要支援児がどこに住んでも受け入れてもらえないと困るという民間では計画されていない。

要支援児を私立幼稚園が受け入れるための条件について検討し、解決する必要がある(副区長)

・まず要支援児を受け入れるという点で懸念があるようだが、民営化ということもあって市が立ち上げた幼・保関係者同士の研究会では全国的にも例のない幼児教育プログラム作りが始まっている(今年度で作り上げ、来年度で調整し、三年度目に普及の予定)市教委も、民営化で削減できる経費を再投資して私立幼稚園で要支援児を受け入れて頂き、幼児教育全体を底上げしようというのが今回の趣旨と理解している。財政的な支援と先生のスキル。この二つが揃って初めて受け入れて頂けることになると思う(区長)

・もし要支援児を受け入れた場合、担当の教員を市から派遣してもらえないのか(私立幼稚園長)

・建設的な意見だ。ただ、派遣法の問題もあり、公立に籍を持ったままの民間の幼稚園で指導するのは問題があるかもしれない。単純な派遣では難しいのではないかと(副区長)

・うちの園では要支援児教育の積み重ねによる先生たちのスキルが大きい。それを市の職員として地域の子供たちのために生かしたい

う気持ちはある（公立幼稚園長）

・いつたて民営化してしまえば戻れない。要
支援教育を五年でも十年でも（私立）エプ
ルのにやってみてからでも遅くない。愛珠幼
園（中央区）が市立として唯一、建物に文化財
的価値があるようにして存続が検討されてい
るのなら、人権として部分で存続が認められて
もいいのではないか（公立幼保課長）

◆何でも民営化は問題

・論議を聴いて、官も民も工夫しながら一生
懸命やってきましたとことが判った。その交流が
できたことは成果だ。公私それぞれに特長や個
性があり、選択の余地があるのは良いこと。全
て民営化するようになれば違和感がある。幼児
教育プログラム作りもやるべきだが、それと民
営化とは別。今でもやれることだ。特に教育な
ごの分野では公的なものを潰さず、生かしながら
プログラムアップを図るべき。結論として、三
先幼稚園をなげすむ色々な問題が出る。このこと
を踏まえて判断してほしい（奥野市議）

・公平かつ熱心な議論に感心した。他区では
民営化めどめの進め方だ。十数億円の削減のた

めに幼児教育の場から公をなくしていいものか。
それを市民に押し付けていいものか。（幼稚園
は）単なる箱ではない。生涯の心の支えとなる
場、価値観の問題だ。よく論議を（西市議）

◆削減効果で新しい幼児教育を

・民営化はいいよ。第一「税の均衡」の配
分のため。第二「距離（近くに公立がないため
通えない）や時間（延長教育がないため利用で
きない）などの不公平を解消するため。第三に
市費削減効果を生かして新しい幼児教育を生み
出すためだ。海の子学園周辺の繋がり（つな）の強さに
感銘を受けたが、公立幼稚園という箱にお金を



→港区にこのある私立幼稚園（下はみなと幼稚
園）下は文化幼稚園。市立幼稚園と補い合
力をかわせて地域の幼児教育を担っていました

かけるのではなく子供一人ひとりにお金をかけ
ればいいに住んでいてもそれは可能になる。ま
た要支援児を全て健常児と一緒に教育するとい
うが良いとする考え方には危険性を感じる。（福祉
的・医療的に）プロの人材がケアする方が教育
上良い場合もある。また活発な議論には敬意を
表すが、民営化の是非を論じるのはなげ
その実現のために何か必要かを考えよう、マイ
アアを出し合う場とすべきだ（藤田市議）

◆保育料、受け入れ、公平性など懸念

・公立を廃止して全て私立になり、保育料が
上がって保護者負担が増えると、幼稚園に通え
ない子供が増えて、民営化自体が問われるので
はないか（公立小学校長）

・もし三先幼稚園が廃園になった場合、その
園児一六四名を私立二園で受け入れることは
（人数的に）不可能（私立幼稚園長）

・民営化は、保護者負担の公平性を図るため
とじつが、それは所得に応じてか、それとも所
得に関わらずか。低所得による未就学児をゼロ
にするためにも、所得に応じての公平性は残す
べき（公立小学校長）

・所得に応じた公平性を図る必要があると考
える。低所得で未就学にならないうような方を
支援する限りがあるところがある（副区長）

◆市費削減はどのため？

・市立幼稚園を廃園にした場合、どれだけ費
用が浮くのか？（公立幼保課者）

・単純計算で年間 二十五億円。府や国からの
支援も受けつつあるのと、それを差し引くと、市
として年間一田・四億円の削減効果がある（こ
の言葉は年間）

・これはどうも削減のため「民間化」しようと
するのは、削減分を教育内容の充実へ効
果的に充てるため、またどうに住んでも幼児教
育や養育環境教育を受けられるようにするため
に民間化があることだ（副区長）

◆論点整理して、課題のリストを

・港区は、どうして協議の場を設けたのは良か
った。民間化の是非ではなく、そのための条件
や課題を議論するところから深めたいと思った。
その中で養育環境の問題が主だった。これにつ
いては、民間化で削減できる経費を（養育環境
教育も含めた）、幼児教育全般へ再投資するの、公

↑港区にこのある児童養護施設（上海の子学

園入田寮、下は同池島寮等。市立の幼稚園や小
学校と連携して地域の児童福祉を担ってきた



のノウハウを民間へ引き継ぐ（幼児教育プログラ
ム作成もその一つ）とこの方向で進めるべきだ
ろう。これが民間化の趣旨かと思う。しかし養
育環境教育への行政の支援内容が決まっていな
い中では私立幼稚園による受け入れや卒園まで
の継続した対応が可能かどうかの判断が難しい
状況にある。どうして、だいたい港区として
の論点が浮き上がった。その整理は、ク
リアにしてほしい（区長）

◆「市政」の限界乗り越え協働を

——以上の議論から感じたのは次の点です。
・他区のように「民間化ありき」を進めるの

ではなく、関係者の意見を公平に聴く場を設け
た田端区長の良識、特にその包容力と民主性
リーダーシップは高く評価されるべき。

・しかし、橋本市長主導の「市政改革」の流
れの中では、議論の行き着く先には当然ながら
制約と限界があるという想定される。

・これは、その中で出された意見の大半は
民間化に疑問・不安・懸念・憤りを示すもので
あり、いかにもこの民間化計画が地域の事情や
市民の思いとかけ離れたところから出たもの
であるかが浮き感じになった。

・これもかわらず市長が市立幼稚園の民間化
を強行しようとする狙いは、結局は市民生活に
落し金や金を減らし、都構構や二十四区再編や他
の公的事業（交通など）の相次ぐ民間化構想と
合わせて、市民の税金や財産を財界本位に流し込
むことではないかと感じるのではないか。

・だから、港区民や港区役所は今回の議論を
踏まえ、何よりも子供たちにとって何が最善か
とこの立場に立ち、市政の制約と限界を乗り越
え、市立幼稚園の民間化を許さない方向で、一
層の協働を進めることが期待される。

叫びたい！

今月の提言者

たかはし けんじ

高橋 健治さん(59歳、南市岡)



大義名分で始まる戦争

被害・加害の歴史を伝えよう

あなたは「カーブボール」を知っていますか。この1つでも野球の話ではありません。かへって私も四月十四日のNHKカーブボールの番組で初めて知りました。「イラク戦争から十年」何を学ぶべきか」とこのタイトルでしたが、この

イラク戦争が「イラクの大量破壊兵器の開発保有を口実に始まった」とも関わらず、今もなお「発見されていない」のはほとんど周知の通りです。ではなぜアメリカのパウエル国務長官が国連安全保障理事会で、「このイラクの大量破壊兵器の開発・保有を強く主張して戦争に踏み込んだのでしょか。」とこの暗黒の「カーブボール」といつ、ドイツに亡命したイラク人男性の介在が大きくクロスアップされます。

◆「大量破壊兵器」情報を提供した男

この男性の存在は、デンマークの放送局でドイツの記者が共同製作した「BS世界のドキュメンタリー 世界を戦争に導いた男」(二〇〇一年九月十三日放映)で明らかになれ、それがこのNHK番組で再放映されたのですが、取材や制作にあたっては警察などドイツ当局による様々な妨害、圧力があつたそうです。

その中でドイツ連邦情報局(BND)も、男性についての取材を拒否しますが、執念の追跡取材で、本名はフリード・アンフメド・アルファン、イラク在住時から周辺では「ハンテン師、詐欺師」と呼ばれていたことが判明します。彼は「大量破

壊兵器はトレーラ数台に分けて移動可能で、穀物倉庫で結合される」という情報をBNDに提供しました。穀物倉庫とは後にパウエルが国連でパネルを使って説明した場所です。そしてそれは「興味深い情報」とされ、彼は「特定されない人物」になりました。しかも亡命者は通常一年ほど収容所に滞在するものですが、彼は高級アパートに住み、携帯電話やパソコンをあげられ、資金を提供されるという破格の厚遇を受けます。その一方で、彼の情報に基づくBNDの報告は美証とされることのないまま一人歩きを始め、CIA、そしてブッシュ大統領に伝わり、イラク戦争の引き金となったのです。

◆「大量破壊兵器」はなかった

やがて戦争が始まるまで、彼「カーブボール」はBNDにとって無用かつ存在しない人物になります。居住地を転々と変え、最後には記者側に情報を売るといふことになりました。現在、ホームレスを收容する施設にこの情報もありますが、確かな行方は不明です。そしてBNDはこの件に関して聞き直り、責任を回避しています。いわば「この情報を活用する者の確証を

得た上でも何度も警告した……」。

ところが、一番の問題は、フシシユ大統領でした。この真偽は別、戦争を始める「口実」が欲しかったのです。事実、開戦前、件の殺物倉庫を調査しましたが「ただの殺物倉庫」で中、「大量破壊兵器」などありませんでした。そこで、この戦争は始まったのです。

◆日本軍が謀略で中国侵略

かつて中国を侵略した日本の関東軍は謀略で柳条湖事件（満州事変）を起すことができました。満州鉄道を自ら爆破し、あたかも中国軍の仕業であるかのやうに宣伝し、これを引き金として隣へ隣で中国東北部を制圧、傀儡国家「満州国」を建国したのである。このような日本帝国主義の謀略は大小問わず戦中に数多くありましたが、因みにこの陰謀に関わった関東軍総参謀長・板垣征四郎は満州の際、国民の熱烈な歓迎を受け、「後には引けなくなつた」「迷惑」してはならぬ。この事例は「戦争は「大義名分」をえもたねばならぬ」といふ、その例からだけでもお分かり頂けたと思います。

◆憲法と「人権」の危機

そこで現在、こうした戦争につながる衆動として、先づ「動き」を警鐘を鳴らさねばを得ません。その一は安倍政権が掲げる「憲法改憲」「国防軍の創設」です。これは、今述べたように、いとも簡単に始まる戦争をいづれも遂行できるが、体制的に準備しておらず、いづれも、絶対阻止しなければなりません。

その一は平和の象徴「大阪国際平和センター」(以下、大阪中)が「大阪府中央区」の危機です。先日の朝日新聞でも報じられましたが、橋下・松井のいわゆる「維新ライン」により、展示内容が「暗く悲惨だ」といわれ、「大阪空襲」などに特化された上で、かつての侵略戦争の「加害」の展示や説明が排除されたといふことなのです。国連など全世界から非難を浴びた橋下市長の「従軍慰安婦は必要とあり、この国でも同じことをしよう」との「血の発言」が、いかに動くか、いかに絶たし認めようとするか、が問題です。

こうした問題については、中途半端な「従軍慰安婦の存在」の軍事を認めた「河野談話」(一九九三年)や、侵略戦争で諸国民に多大の被害を与えたこととを認め謝罪した「村山談話」

(一九九五年)がありますが、それが日本を再び戦争へ向かわせないう保障にならなければなりません。過去の教訓からも、平和は私たち国民が時の権力を不断に監視し、危険な行動を事前に阻止する、いづれも守られないのです。

◆今夏も「大空襲の体験を語る集い」

今夏で十二回を迎えたNPOのみならず、大空襲の体験を語る集い(21頁)あれこれ「い」に開催概要も、そうした国民の平和運動の一です。今、戦地での戦闘や空襲を実際に体験された高齢者が次々とお亡くなりになる中、広島・長崎での原爆被害、全土にわたる空襲被害の歴史だけでなく、中国や朝鮮での加害の歴史も「負の遺産」といふ自覚、そうした「正しく歴史を次世代へ継承しよう」といふ、先に述べたような情勢の中、ますます切実な課題となつてきます。

「継続は力なり」といいます。この取り組みが本気で戦争抑止と平和を願う地域の人たちの皆々からの期待するものです。皆々からの期待するものです。皆々の積極的な参加を心から期待するものです。

(特定非営利活動法人 NPOのみならず)理事

地域の絆強めた防災訓練

南岡マンションと近隣が合同で



→マンションと近隣住民が合同で実施した防災訓練の2月2日、南岡地区の真砂山非常階段の位置を説明するマンション管理組合理事(左)

「マンションと地域の防災力を高め、助け合いの関係を強めよう」と六月二日(日)朝、南市岡二丁目の超高層マンション「キングスワークアムンドレックス」(二棟に五五五世帯)居住者と近隣住民による合同訓練が行なわれました。約百人が参加。今年一月に「津波一時避難ビル」(大津波警報が発令された時に廊下などの共用スペースを周辺住民が一時的に使える建物。区内で六十八カ所)に指定された同マンションへの避難ルートを近隣住民が確認すると共に「マンション居住者と近隣住民が様々な防災訓練を一緒にこなす」ことで地域の絆を強めました。

同マンションの管理組合と町会が主催、港区役所・港消防署・南市岡二丁目各町会が協力。

◆マンションへの避難ルートを確認

訓練は「午前九時に南海トラフを震源とするM9レベルの巨大地震が発生、津波が一時間後に襲来する」との想定で、九時に開始。まず近隣住民が「津波一時避難ビル」である同マンションへ避難する訓練が行なわれました。この訓練では、同マンション管理組合の南義中理事長(四九)が、最大棟の正面玄関から「ロビー階

↑マンションの棟のロビー階段を上る避難訓練参加者。「高層者が心配」の声もあつた



段を上るルートや、他の二棟の非常階段口から入るルートを案内し、「普段はロックされていますが、非常時には開けますので、ここから入り、歩いて三階以上へ上がって下さい」となすと説明しました。

◆オートロックが不安だったが安心した

案内を受けた真砂ひろみさん(五十代)は「近くの町会から来ました。このマンションは津波避難ビルに指定されたものの、オートロックなので、いざという時、本当に避難させてもらえるのかな」と不安でしたが、実際に案内してもらって、非常階段などから入れることが分かる

安心しました。ただ高齢者が歩いて階段を上れるのか、心配です」と話していました。

「このあと玄関前で集まりが持たれ、南理事長 武智虎義・市岡連合振興会会長 田端尚伸・港区長が挨拶。異口同音に「災害時における地域の絆の大切さ」を強調しました。

◆起震車体験や搬送訓練も

このあと参加者は数グループに分かれて種々の訓練に参加。このうち「起震車体験」で震度を体験し、「キヤー」なごつと叫び声を上げていた清水かおりさんらマンション居住の三十〜四十代男女二人は「揺れると分かっていて、しか



→震度を体感できた「起震車体験」⑤「固く結んで解きやすいロープの結び方を防災リーダーから学んだ「ロープ結索講習」⑥

も家具転倒などの恐れがない空間でもこの凄さですから実際に家の中で急に揺れが来たら、恐ろしいハリックになるでしょう。初めてですが、体験できて良かったです」このマンションには六年前から住んでいます。年一回の火災訓練などはありましたが、地域と各戸での防災訓練は初めて。私たちが安心でき、地域の方にも喜んでもらって嬉しかったです」と話していました。

この他、「ロープ結索講習」では災害救助の際に「固く結んで解きやすい」結び方として①本結び②まき結び③もやし結びなどの練習を、「消火訓練」では水を詰めた訓練用消火器で放水練習を、「搬送訓練」ではポールと毛布で拍架を作る練習や、布拍架で怪我人を運ぶ練習を、「応急処置」では三角巾を使って負傷者に応急処置を施す練習を、いずれも防災リーダーの指導で反復していました。

◆周辺と一体の取り組みがあった

七海ちゃん（三）、啓悟君（四）と一緒にこれまでこの訓練に参加していた日井愛子さんとマンション居住の「本結びは着物教室でも教えてもらいましたが、よひのつかひでみるよ

←水を詰めた消火器で的当て練習をした「消火訓練」⑦「ポールと毛布を使った拍架の即製を防災リーダーから学んだ「搬送訓練」⑧



うになり、嬉しいです。周辺地域の方と防災を通じてつながりを深められたことも良かったと思います」と話していました。

また市岡連合地域防災リーダーとして訓練指導に携わっていた横田郁夫さん（市岡4770）は「防災リーダーを九年間務めています。万が一に備えて色々な救助法を体験しておくことはとても重要。私が知っているも、地域に広げていかなないと意味がありません。今日はかなりの人たちが学んでくれましたが、もっと参加があればさらに良かった」と話していました。

◆市岡の防災リーダーはトップクラス

最後に山口正春・港消防署警防副署長が講評の中で「港区の防災リーダーは三百十七人いるが、市岡のリーダーはトップクラス。これを港区全体へ広げてほしい。また、あのマンションでは安否確認に四十分かかり課題を残したが、このマンションでも次は安否確認に挑戦を」とエール。同マンションの町会である南市岡三丁目東町会・服部一夫会長（六五）が安否確認用シールの見本を示しながら「安否確認はこのシールの活用を考へてほしい」と話しました。

◆簡単な作業も繰り返し訓練が必要

訓練終了後、市岡地域活動協議会の防災部会の一員として消火器訓練の指導などに携わっていた坂本敬子さん（市岡）（五十代）は「簡単な作業でも、慣れてきたら慌ててしまいませんか。体で覚えるというまで繰り返し訓練が大切だと改めて感じました。水に囲まれ、土地も低い港区ではマンションが頻りにあわめますが、マンションでもまた周辺に助けを求めます。地域のつながりが疎遠になる中、今はマンションと周辺のつながりができていくと良かったです。これからぜひ地域一帯で防災を考へていく必要が

↑布担架での救出を防災リーダーから学べた「搬送訓練」で、三角巾を使った手当てを防災リーダーから学べた「応急処置訓練」



あつてほしい」と話していました。

また、車椅子で参加した田村直子さん（マンション居住）（三十代）は「職場は障害者中心なので、それなのに防災の備えはできています。在宅時はマンションのエレベーターが止まり、階段も使えませんが、とても不安です。今日は自分の存在をアピールしたい（笑）こともあって参加しましたが、これからこうした訓練を重ねながら、障害者対策もきき取り厚くなるの期待しています」と話していました。

◆安否確認や障害者対策を課題

訓練を振り返って南理事長は「災害でインフ

ラが破壊されたり寸断されたりしたら一日も生活できません。その時大事なのが地域のつながり。今日はその第一歩。これからも続けていきたい。また私自身も持病があり、マンションに住む病弱者・高齢者・障害者などの対策の重要性は認識しています。緊急時には今のよう①レスキュー隊に駆け付けてもらう②布担架を活用する一などの対策が考えられますが、本格的にはこれから具体化していきたい。」

また服部会長は「障害者・病弱者・高齢者対策は非常に重要。現在布担架は五枚ありますが、さらに増やすつもりです。そして今後マンションアカツーフロアに一人の責任者を配置して安否確認だけでなく救助活動もその範囲でできるようにもっていききたい。そのための関心を広げ、協力者を増やすためもあって、今日は多くの参加を呼びかけました。これからも続けていきたい。そして、こうした取り組みを通じて、周辺住民の方々にとってのマンションが気楽に避難できる場になれたらと思います」と話していました。

海外も注目！窓口業務

港区役所へアブダビ視察団



「区民の高い満足度の秘密を学べた」。六月十四日、アブダビ首長国の視察団が港区役所を訪れ、窓口業務などを見学しました。

回国はアラビア半島の南東部にあるアラブ首長国連邦（七首長国から成る）の一国。一行は回国の行政官ら二十数人。市役所で行財政改革などの説明を受けた後、港区役所を訪れました。港区役所が選ばれたのは、覆面調査による「区役所窓口業務の格付け」（今年四月に結果公表）で、二十四区中最も高く、唯一「民間平均を上回るレベル」（星二つ）の評価を受けたからです。

◆ワンストップ窓口を紹介

「区役所ではまず田端向伸区長が「港区は区長によるマネジメント、区民との協働を重視しながら、信頼される区役所を目指している」と強調。「市民サービス向上の取り組み改善事例」として主に次のような例を紹介しました。

- ・二〇〇五年度から独自で「みなと改善箱」を設置したり、区民から年間平均百数十件の意見が寄せられている。
- ・二〇〇七年度から二十四区のトップを切っ

て一階で「ワンストップ窓口」を設け、その後も



「区役所ではまず田端向伸区長が「港区は区長によるマネジメント、区民との協働を重視しながら、信頼される区役所を目指している」と強調。「市民サービス向上の取り組み改善事例」として主に次のような例を紹介しました。

- ・二〇〇七年度から「職員改善提案制度」を、二〇一一年度からは「職員表彰制度」を実施して職員の意欲と知恵を汲み上げるよう努めてきたが、その中で、①外国人住民の異動届の英語表記による記入例を作成②順番待ち案内舎の番号札を団扇うちわにして紛失予防や節電やイヤイヤ解消に貢献などが実現した。
- ・二〇一一年度に窓口レイアウトの改善（区民スヘースを広げ、キッズコーナーを設け、絵本を置くなど）を行ない、好評を得ている。
- ・区長の職員向けメッセージを庁内情報誌にて

「通訳を通して窓口業務の改善事例などを紹介する田端区長」と「質問する視察団の男性」

「通訳を通して窓口業務の改善事例などを紹介する田端区長」と「質問する視察団の男性」

→港区役所の窓口業務などに高い関心を示した

アブダビ首長国の視察団＝6月14日午後

（写真提供：区庁第一階窓口業務課）

掲載したり、区長と職員の見交換会を年三回開催したりして職場での意思疎通に努めている。

- ・若手職員の提案で、時間外のグループ討議「ワールドカフェ」や、家族も参加しての休日交流を行なっている。

- ・「いつた取組みの結果として」二〇二一年度の窓口サービスに関する来庁者アンケートでは「分かりやすい言葉での説明」「親切・丁寧な対応」「身だしなみの清潔さ」「建物の清潔さ」など以上の項目で満足度高の評価が得られた。

- ・同二〇二一年二月の職員アンケートでは「仕事にやりがいを感じている」「職場が田中道彦が言える」との回答が前年より七ポイント、八ポイント増え、八二が、九一となった。

◆熱心なふれたる質疑応答

これに対して視察団から主に次のような質問が出されました。↓の後は区長や担当者の回答。

- ・ワンストップサービスはタブレットでも採用しているが、「正確さの確保」と「時間の短縮」という課題をどう解決しているのか。来庁者を移動させず、それぞれの専門知識を持った担当部署の者が入れ替わり対応するのは正確性を確保

保でき、来庁者がそれぞれの窓口で待たなくてよくなる時間短縮になっている。

- ・職員のやりがいアップはどのように実現したのか。→「ワールドカフェ」など職員からの提案を積極的に採用したり、採用には至らなくても「見える形」で返したことでモチベーションを維持・向上できていると思う。因みに、やりがいはアップしても、給与など待遇面はアップせず、むしろ厳しくなっている(笑)

- ・区民の満足度アップはどのように実現したのか。→区民からの批判的な意見にも、担当部署を中心に「一丁揃い」に対応する工夫を重ねてきた結果だと思っ



↑左：両国間の視察団と記念品を交換する田中道彦区長と「記念撮影」時の視察団一行の

- ・近い将来、港区は必ず「三つ星」になると思うが、「三つ星」に向けて、なにをしたら改善が必要か。→「三つ星」そのものが目的ではないが、区民の声に繰り返し応えることを通して区民のより高い満足度を実現していきたい

——予定時間をオーバーして繰り出される質問に、優れた日本の公務員制度や人材育成制度を学ぶで帰るつもりという意欲が感じられました。

◆「効率だけでない在り方学んだ」

記念品交換と記念撮影の後、一行は一階で実際の窓口業務を見学しました。

視察団の一人、マリyam・アル・ハメリさん(女性)は「職員の意欲と能力の高さに感銘を受けました。特に顧客サービス向上に熱心に取り組む姿が印象的でした。国に戻ったら業務の在り方や職場環境の問題点を話しきりさせ、上司とも相談しながら改善していく必要を感じました。私は国でプログラムのマネジャーをしています。顧客満足度の向上を目指す姿勢は同じですが、今は特に「効率」を追求していますので、それだけではなく港区役所のサービスの在り方について学ばないなら良かった」と話していました。

ろく奴だじゅ……

池島 1・勝部素田の 60 歳

兄弟姉妹で通学……。見守っていて顔がほろろ。一人一人も多岐にわたった。両親でも一人っ子だったはずと、1の子、大きくなったら親類縁者が一人もいないことになる……(大きなお世話だ)の声が聞けない。

右も左も「スマホだ」「インターネットだ」「ネット」で選挙運動だ「スマホに弱い年寄りのほら」が付いていけぬ。そのうち「ネット」で投票「てな」ことになるかもしれないが、選挙べらうに自分と字書いて投票箱に入れないわい。

七百人ほどの大学生にスマホについてのアンケートをとった。何と九二票も所持者がいたのだと新聞にあった。学問の府も変わわね変わったものだ。君たち、就職先がないなどとはやむを得ない。本を読んでも「創造力」「想像力」をこぼし、言葉に力をつけて「思考」する——「教わった者人には言いつべき言葉もない。

——とまあ、近頃のいこうな流れを田下したら、鶴田浩一つるだひろしの歌の詞をいかにやなぎが「ろく奴だじゅ

思いでしょが……と聞か直るしかない。ななせじつて田下回のために行へんのか分かるぬ。あては下から眺めれば分かるが……。

「地活協」の役割よく分かった

(田・50代会社員)

「地域活動協議会」として新しい組織が地域に生まれたいことは聞いていましたが、どんな役割をするのかはほとんど知りませんでした。その旗揚げの記事(前ページ)を読んで、大体のことが分かりました。そして、役員の方たちがこの組織についてまだ充分理解されていないことや、補助金のやりくりが苦労されていることや、活動資金の不足を補つために「シネマ」を考へておられることなども分かりました。

ただ、私自身は町会の一員ですが、特に地域活動をしている訳ではなないので、これが良いことなのか、悪いことなのか、まだこの新組織が、地域へ溶け込むべき金を財界本位に流すための「巧妙な手口」だったのかどうか、なにも分かりません。が、立ち上げまでの経過や運営委員会の様子を見る限り、上からのかき混ぜたての

立ち上げとせられたことは確かなように思います。すなわち、立ち上がった以上良い組織が地域に「プラス」になることを願っています。できれば今後の成り行きも取材され、実際にどうだったのかの判断が下せるような記事を掲載されるよう期待します。

「地活協」は上からの押し付け」に反感

(磯 2・障地昭昭の 44)

「地活協」(前ページ)のことはよく知ることがのですが、今回読んでみて、多少は分かった気がしました。活動や事業の計画をどうそれに応じて予算配分するというのは、言いつは簡単ですが、実際に携わる人たちがどうは大変なことだと思います。しかもスタートした以上はより良いものにしてほしいです。しかし正直なところ、「ああ、良いのができたなあ」と思うよりも、住民の意向や関係なへ上からの押し付けられた感じが強い方が強いです。費紙が最後に「気になった」として書いておられる内容に全へ反感です。丁寧な取材と説明、あそこがよい、ねえと。

記事にも記者の視点の温かみや質の高さを感じます。港区民にはありませんが、すつかの「マ」になっていきます。ただで読ませてもらっているお礼に、友だちにも紹介して読者を広げたいと思っています。

「奉仕」「ボランティア」に惹かれた

市岡元町・辻悦子の4歳

「三社神社」氏が奉仕の修復作業（前号）の裏を講じて「奉仕」「ボランティア」の言葉に「おんせせららわん」について自分の事（雑用）に「わん、わん」出て来ているなあと思っただ。休みの日に三社神社へお参りに行って（修復された石碑の文字を）見せて頂きたいと思っます。書いて中、大変だっただと思っます。

「弥栄子」に父の伯母を重むた

（嫁・藤原の70歳女性）

「弥栄子の望」(前号)まで五回連載を読み終えて。戦争で夫を失った悲しみを乗り越え、戦後も失対事業などで家族を支えて生きていられる弥栄子さんの姿に、「父の伯母を重むまっした。

伯母も戦地で夫を失い、空襲を生き延び、残された二人の子を自力で育て上げ、立派に世に送り出しました。日本にはこんな逞しい高齢女性はまだまだおられると思います。そんな人生をこれからも取り上げ、平和な未来のために紹介してほしい願っています。最近のテレビや新聞には見るべきものがあまりないので、港新聞でこういう記事を読むのを、私は何より楽しみにしています。応援しています。

猪伏さん「戦争体験」活用したい

区・50代男性高校教師

猪伏さんさんの「戦争体験」(5月号)から連載中)に読み入っています。まだ始まったばかりですが、当時十六歳の多感な少年の記憶を辿った臨場感あふれる記述は、終戦直後の満州史の決定的断面を捉えた実に貴重な資料になる予感があります。戦争は爆弾や弾丸が飛び交った最中だけではない、その後も悲劇が続ぎ、広がることを生徒たちに伝えていきたいと思っていますので、この連載が終わったら、ネットからまとめたプリントアウトして頂き、平和教育に活用したい

と思っています。

弁天町駅前聖地の問題を取り上げて

市岡・団体役員

戦災から港区を復興させ、水害に強い街の土台を造った「港地区復興土地区画整理事業」(昭和二十三年〜平成四年)を記念し、その中で生み出された資金(三十八億円)と土地(弁天町駅前の六三〇坪)を活用して何らかの施設を作ろうとの計画は一体どうなったのでしょうか。協議が始まって二十一年、未だに具体化せず、資金は金庫に眠ったまま、土地は空き地のままです。この間何度も、市役所や港区役所の担当部署、市議会の当該委員会、また港区選出の市議員に問い合わせてきましたが、納得のいく対応は得られていません。港区の活性化を考えると、少なくとも区選出の市議員は党派を越えてこの問題で協力し、努力すべきだと感じます。貴紙は二年前にこの問題を取り上げられました。が、もう一度取り上げ、区民の関心呼び起し、この貴重な区民の財産を一日も早く有効活用できるようキャンペーンを張ってほしい。

平和理念がもたらした再生を

「ピースおおさか」巡りシンポジウム



→設置理念を踏まえた再生をと開かれた「ピースおおさか」のリニューアルに府民・市民の声を「シンポジウム」の月、港区民センター

「ピースおおさか」のリニューアルは設置理念を踏まえたもの」と六月十九日、港区民センターで「ピースおおさか」のリニューアルに府民・市民の声を「シンポジウム」が開かれました。同シンポジウム実行委員会が主催。一百人を超える参加者があり、空襲被害者や教育関係者らがそれぞれの立場から意見を述べ、会場からも多数が発言。「設置理念から離れたリニューアルは許せない」「ピースおおさかを真の平和発信のセンター」との熱気が溢れました。

◆「自虐的」な理由でリニューアル

「ピースおおさか」(正式には「大阪国際平和センター」)は一九九一年、それまで「大阪府平和祈念戦争資料室(一九八一年設立)が果たしてきた平和発信センター」としての役割を引き継ぎ、発展させる形で開設され、以来、百七十万人以上(うち七割以上が小中学生)が来館しました。

一十二年目となる今年の四月、「展示物の劣化や装置機器類の陳腐化」「展示内容や説明文に変更が必要」「残虐」「偏向」「自虐的」といった批判もある「なまじり理由」した「展示リニューアル構想」が同センターによって公表され、①

大阪空襲の犠牲者を追悼し、平和を祈念する②
大阪空襲を中心にして「戦争の悲惨さ」「平和の尊厳」を次世代に伝え、平和を願う豊かな心を育む」との方向性が打ち出されました。さらに「府・市において『近現代史の教育のための施設』が別途検討されている」ことから「これとの役割分担・連携も意識したリニューアルを進める」としています。

こうした動きに対して、これまで同センターに関わってきた人々を中心に「改善も示されているが、大事な内容の欠如や見過ごせない変更も多々ある」との声が上がり、「リニューアルするなら『世界の平和と繁栄に積極的に貢献する』との設置理念を踏まえた再生を求めよう」と今回の集会在企画されたのです。

◆「イデオロギー」による改題」「改題

集会ではまず十五年戦争研究会の上杉聡さんが基調提案を行いました。「この中で上杉さんは、ピースおおさかは府市民が一体となって作り上げた日本でも稀な施設」それをイデオロギー(政治的信条)によって改題すべきとするリニューアルには反対せよのを得ない」として

上で今回の「ニューラル構想」について①「空襲による犠牲者」の添い、追悼の場を中心に「展示すべき」の立場は高く評価すべき②「身近な大阪から出発し、戦争遺物・現地・現物」に語りせる「展示」の点はまた弱い③「次代を担う子どもが深く考え、理解し、自ら首肯」展示に腐心する「この点もまだ弱い」④「世界の空襲史の中に大阪空襲を位置づけ、現代の危機へとつなぐ」視点が欠落している⑤「広い視野(長い歴史)から戦争を抑える努力」は「まだ不十分」と自身の感想を述べ、「ピースおおさかは大阪府市民のもの。この地を再び戦火に陥らせないために強い要望の声を上げていく」と呼びかけました。

◆各界から訴えや提議

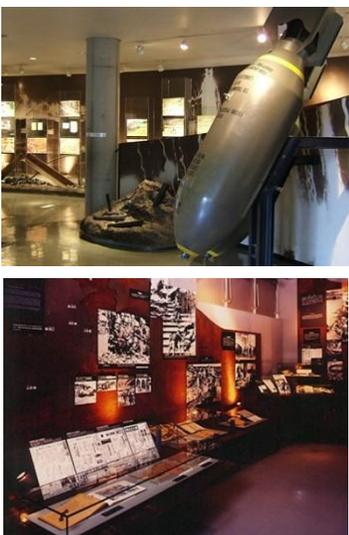
一これを受けて「各界からの発言がありました。このうち元大阪城天守閣館長の渡辺武さんは「博物館としてふさわしく運営されてきたのが、展示物は五年で経年劣化が起るの」二十年以上「お放置の問題」「ニューラル構想は設立理念をどう継承するのが不明確。加害と被害の実態を踏まえたまっとうな歴史認識が欠如している」「専門学芸員を三名は採用し、自由に資料の保

管・整理などができる体制を」などと指摘。

空襲被害者の久保三也子さんと「大阪大空襲の体験を語る会代表」は「防空壕などは実際にあった姿で展示してほしい」「建物や道路に分かりやすい表示を」などと要望。

元小学校教師の橋口哲さんは「事実」に即した展示内容に「過去の歴史が身近に感じられるように」「各階への流れをスムーズに」「大阪城周辺の戦績との関連展示を」などと改善点を指摘。

歴史学研究者の人見佐知子さん（甲南大学人間科学研究所博士研究員）は「子どもも発達段階に配慮した展示」という点で現状は不十分「加



→大阪空襲と人々の生活を伝える「ピースおおさかの展示室A」①と、十五年戦争の実相を示す「戦争の非人間性を取り上げた展示室B」②

害の展示は韓国などこの平和のために必要」「復讐」を強調する「ニューラル構想では今後も続く被害者の苦痛に耳を閉ざすことになるのではないか」「全体性」を強調する「ニューラル構想では個別の生と死に向き合うことにならないのではなか」などと指摘。

平和学者の奥本京子さん（大阪女学院大学教授）は「きえさせぬ質問の掲示を」「展示」アーの活用を「感情」に「知性」にも訴える場」などと要望。

在日外国人の方清子さん（日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク代表）は「残酷だから自虐だからと事実を教えないのはもったいなく」「慰安婦問題など新たに分かった事実や資料を柔軟に採り入れる姿勢を」「空襲展示は国家の責任を問うもの」「加害の事実」に向き合うこと「戦争の恐ろしさを伝えられる」「証言や資料を掘り起こす作業を急ぐべき」と強調。

空襲被害者の伊賀孝子さん（大阪戦災被害者遺族の会代表）は「若い人たちが真剣に平和を考えていることに感激した」「民間犠牲者への援護法制定と共に、ピースおおさかの良い「ニュー

アルを強く求めていきたい」と切実な思いを吐露しました。

◆会場からも多数が発言

このあつ会場からの質問や意見が募られ、先の発言者も加わって「議会で多数を握る人たちによる強引で安易で性急なりニューアル構想は許せない」「近現代史の施設を府市が作るのには無駄つかい。ピースおおさかを充実させるべき」「ピースおおさかはこれまで何度か危機を乗り越えてきた。今回もフロンティア」「東住区田辺」落ちた模擬原爆など各地の戦争体験の語り部の組織化にも取り組むべき」「運動で平和が勝ち取れる」という希望の側面を強調した展示を「新大阪近くは昭和」十年八月の二度の空襲で全滅し、地域ぐるみでの体験を継承してきた。こういった地域の取り組みを集めれば素晴らしい展示ができる」「ニューアル構想では明治以来の日本の侵略の歴史が抜け落ちてくる」「ニューアル構想で『大阪中心』が言われているが、大阪が軍都だったからこゝろやられた」という点を明確にするべき」「侵略戦争の象徴としての南京虐殺を伝えていくべき」「埼玉県立平和資料館の運

←地球や生命や人権の尊厳について考えさせる

ピースおおさかの展示室の④と、シンポジウムで熱心に討議に参加する人々⑤



営が民間委託され、性格が変わりつつある。こういった動きは全国的。大阪と連携して運動していきたい」「一などの意見が交わされました。

◆「ついで言葉」運動呼びかけ

以上を受けて上杉さんが「まじめと言葉」を行ない、この中で「この三月に館長以下ほとんどの職員が交代する人事が行なわれた」とこと今回のニューアル構想が無関係ではないことを示唆した上で、一人ひとり「ピースおおさかへの要請などを書いて送り届ける」という言葉を運動を呼びかけ、最後に「集芸宣言」に参加者の拍子で採択しました。

終了後、淀川区から参加したという荒川恵子

さん(⑧)は「高等小学校二年生の時、母と

弟は岡山へ縁故疎開していましたが、私は今の

淀川区三国辺りの工場へ学徒動員され、高射砲の弾を造っていました。そこで空襲に遭い、防空壕に入りました。幸い無事でしたが、北野中学(今の北野高校)辺りがかなりやられました。

戦後は一九六二年からずっと母親大会に参加してきました。今日はピースおおさが悪く変わるかもしれないと心配で参加しましたが、体験者のお話を聞いて戦争の恐ろしさが改めて分かり、こういった体験を次の世代に伝え残すために

も、ピースおおさかの良い所を守らなければいけないと強く思いました」と話していました。

◇

大阪が誇る平和施設を守るということ府市民の熱気が印象的でした。その上で、戦争を更に大きな世界史の流れの中で捉え、旧日本軍の侵略性を強調するだけでなく、それを挑発して世界戦争へと引き込んだアメリカの桁違いに遠大で

今に至る侵略性・残虐性を追及する方向へ進めば、一層力強い平和運動になると思われま

障害者の情報

「ぶらっと」内職・軽作業・手作りの品(クッキー・雑巾)

「ぶらっと」は地域活動支援センター(夕凧)のTEL・FAX六五七五〇二二五。

「ゆうゆう美縫」手づくり品・レザークラフト

マグネット(花型・鴨子型) 100円▽アカリルタワシ 100円▽お手玉 100円▽ブックカバー(レザークラフト) 1000円▽革製品色々 200円より▽ゆうゆう美縫は生活介護就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所(三先)のTEL六五七〇一〇九、FAX六五七〇一〇四。

「手と手ハウス」夏もの着の手作り品

紙ひも作品(小物入れ)・牛乳パック椅子など 400円より▽点字用紙リサイクル品(ティッシュカバー・靴型小物入れ等) 100円より▽アカリルタワシなど小物 50円より▽手と手とハウスは生活介護の指定障害福祉サービス事業所(波除)のTEL六五八五〇三三、FAX六五八五〇三五。

NPO法人ナポレオンフィッシュコミュニティ

業 内職・軽作業 応相談

レオンフィッシュは就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所(磯路)のTEL・FAX六五八八八九三四。

「港ひかり作業所」手づくり品・レザークラフト

小銭入れ 500〜600円▽キーケース 500〜千円▽カードケース 400円▽レザーハンド 300〜500円▽ペンケース 700円▽キーホルダー 300〜500円▽めがねケース 1000円▽小物入れ 100〜千円▽徒港ひかり作業所は池島一・四市宮住宅内(TEL六五七四二四二五、FAX六五七〇一五九〇)。

「あゆみ作業所」手づくり品・トルペイント

ウエルカムプレート・袋物・和柄帽子など 100円より▽あゆみ作業所は生活介護の指定障害福祉サービス事業所(築港)のTEL・FAX六五七〇七二四。

「ワークみなと」手づくり品・お菓子・印刷

パンケーキ・パイナップルケーキ(バザー時のみ) 100円▽くるみゆべし(同) 100円▽封筒印刷(長さ、千枚以上) 100円(応相談)はがき(十枚から) 100円(応相談)▽名刺

(ロゴ入れ可) 100枚 1050円より▽カラー名刺(ロゴ入れ可) 100枚 1575円より▽ワークみなとは就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所(夕凧)のTEL六五七〇七五二一、FAX六五五六九〇二〇。

「グリーンズ・グリーンズ」ベジタブルレストラン・手づくりお菓子・弁当など

フェスタイルの昼定食 800円▽パウンドケーキ 100円▽豆乳プリン・寒天ゼリー 100円▽日替わり弁当(月火水金曜日)に港区内配達 500円▽オードブル 1000円▽グリーンズは就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所(築港)のTEL・FAX六五七四二九二〇▽グリーンズは就労移行支援の指定障害福祉サービス事業所(築港)のTEL・FAX六五七〇一〇九、TEL・FAX六五七〇一八三〇。

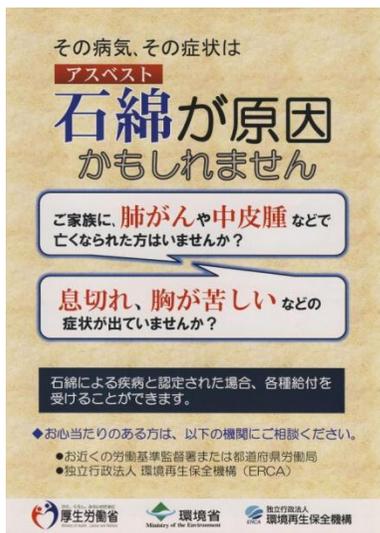
「マーガレット工房」コンピュータ作業・Tシャツ製作・手づくり品

ホームページ作成など 応相談▽少量向きプリントTシャツ 1000円▽Tシャツ製品 400円▽マーガレット工房は生活介護の指定障害福祉サービス事業所(田中)のTEL・FAX六五七六二一八四。

あれこれガイド

■石綿(アスベスト)パンフ 肺がん、中皮腫ちゅうひしゅなどの病気や、息切れ、胸の苦しさなどの症状や、それらによる死が「アスベスト」(石綿)によるものだ」と認められたら、色々な給付を受け

ることができるといえる。このパンフレットは「写真」はそんな人たちや家族のために、①石綿による病気にはどんなものがあるか②石綿による病気が分かった場合の補償や救済の制度にはどんなものがあるか③その場合「どう」質問し合ったらよいかなどを厚生労働省と環境省と独立行政法人環境再生保全機構(ERCA)がまとめたもの。タイトルは『その病気、その症状は石綿(アスベスト)が原因かもしれません』。この



その病気、その症状は
アスベスト
石綿が原因
かもしれません

ご家族に、肺がんや中皮腫などで亡くられた方はいませんか？

息切れ、胸が苦しいなどの症状が出ていませんか？

石綿による疾病と認定された場合、各種給付を受けることができます。

◆お心当たりのある方は、以下の機関にご相談ください。
●お近くの労働基準監督署または都道府県労働局
●独立行政法人 環境再生保全機構(ERCA)

厚生労働省 環境省 独立行政法人 環境再生保全機構

パンフで分かりやすい(区内六十代男性)と好評。港区で暮らすか働いている人なら港区役所合同庁舎(市岡一・一五・一五)二階の港区保健福祉センターのチラシスタンドに設置してあるものを無料でもらえます。

■大空襲の体験を語る集い 戦争の被害で加害

の歴史を正しく伝え、憲法九条を守り、地域に平和の力を築くため毎夏開かれる取り組みの十三回目。八月十日(土)十三時から田中機械ビル(南市岡二・一六・一六)で。参加費無料。戦地体験者・空襲体験者・疎開体験者などのお話を中心に、平和映画の上映、戦争関連写真・絵画資料の展示など。写真上下は昨年の模様。戦争体験の語り部募集。問い合わせは主催のNPO みなと(☎六五八三・四八五八、担当:高橋)まで。



■緑の地球ネットワーク(GEN)「黄十高原ス

タディツアー」中国の黄十高原じゅうじつを訪問し、緑化

協力の成果を観察し、村人と交流し、失われた緑を取り戻す試みを体験。写真上下。八月二十四(土)泊七日。費用は一般一六万九千円、学生一四万九千円(変更有)。定員約二十五名。申込期限七月十七日(先着順)▽GENは黄十高原で九年から緑化協力を続ける認定特定非営利活動法人。地球環境のため国境を越えて力を合わせている▽詳細は事務所(市岡一・四・一四・五階、☎六五七六・六一八二)へ。

■ム子打ち(省・腰)無料相談会 交通事故で

ム子打ちになった被害者を対象とした無料相談会。七月二十八日(日)十時十八時に行政書士のむら事務所(築港二・七・一・一六〇〇)で。一人約一時間。事前予約制電話かメールで。「どついたら正当な補償が得られるかをアドバイスします」事故後、早めの相談が良い結果につながります(同事務所・野村光恵みつえさん)。Eメール:info@jikkou110-nomura.com、TEL:六五七六・六〇七八、FAX:六五七六・六〇七九。

4区バレーで港区強し

弁天ク、ISOJIIがワンツー



→ 4区大会で初優勝を飾った弁天クラブ
(写真は昨年11月の市長杯優勝時)

「区の垣根を越えてバレーボールを楽しみ、親睦と友情を深め、生涯スポーツを発展させよう」と六月十八日(日)、此花スポーツセンターで「四区親善バレーボール大会」が行なわれました。港、大正、西、此花の四区のバレーボール連盟の共催で二十五回目(今年は此花区連盟が当番)。各区から三チーム、計十一チームが出場し、港区の弁天クラブが優勝、港区のISOJIIが準優勝、大正区の泉尾東小学校PTAが三位に入りました。

●港中OBが港区3チームも健闘

十一チームがハチムツコートに分かれて予選一試合を戦い、港区から出場の三チームも健闘しました。このうちBコートの港中OB(抽選で出場権)は堀江中学校(西区)と三東小学校PTA(大正区)を相手に一敗を喫し、予選止まりでしたが、弁天クラブ(昨年市長杯優勝で出場権がAコートで西中学校PTA(西区)を二対〇、カントリークラブ(此花区)を二対一で降して一勝、ISOJII(昨年連盟杯優勝で出場権もBコートで大正東中学校OB(大正区)を二対〇、春友会(此花区)を二

← 4区大会で準優勝に輝いたISOJII
(写真は昨年11月の市長杯準優勝時)



〇で降して一勝を挙げ、各コート首位決定戦へ進出。さらに弁天クはAコート首位決定戦で泉尾東小PTA(大正区)を二対〇で、ISOJIIはBコート首位決定戦で三東小学校PTA(大正区)を二対一で降し、ここに港区同士の頂上決戦が実現しました。

優勝決定戦は、昨年十一月十八日に港区で行なわれた市長杯大会の決勝の再現となりました。共に声を掛け合つての懸命の攻防が感動を呼びましたが、鍛え抜かれたレシーブ力に加え、五枚アタッカー（金城、小田、伊井、杉森、奥澤）といつ攻撃面での層の厚さを誇る弁天クラブが、四枚アタッカー（田麦、池田、田處、谷口）の壁である田處の穴場（母親に預けていた幼児を迎へに行くため）で本来の精彩を欠いた。そしてゲームを終始リード。二十一対六、二十一対十一でゲームを連取し、念願の初優勝を飾りました。

●優勝はチームに新たな歴史

優勝を飾った弁天クラブは数下俊文監督（港区バレーボール連盟副会長）の厳しくも質の高い指導のもと、弁天小で毎週一回二時間と二時間の練習を重ねてきました。

藤川博之主将は「前評判の高い実力チームと当たった予選が苦しく、特に試合目のカウントリークラブ戦では第一ゲームを落こし、『もうだめか』と覚悟したほどでした。が、五枚アタッカーを中心に攻めの姿勢を貫き、ブロックも決

まり出し、新旧交代の中でも監督の指示で引き続きセッターを任された私も懸命にトスを上げ続け、とにかくチーム一体で頑張り、粘った結果として逆転できました。これが大きなポイントになり、リズムに乗れて優勝を手にすることができ、最高の気分です。長年主将を務めてきた私にとつても最高の年になり、チームメートには心から感謝しています。四区大会という大きな場で初めて頂点に立てたことは、港区の大会での優勝ではまた違った感慨があり、チームに新たな歴史を刻んでくれました。そして、これに慢心することなく、今後の飛躍のステップとしてこの一日で誓ひ合っています」と喜びを語っていました。

●準Vは今後の大きな財産

一方、準優勝のISSOJは磯路小PTAのOBを母体に結成され、毎週一回、同校で各二時間の練習を重ねてきました。

中瀬笑子主将は「いつも違う会場というだけで緊張してしまい、いきなり連続で五志を奪われる最悪のスタートでしたが、四枚アタッカーが数少ないチャンスで確実にスパイクを決め

てくれたことから守りにもリズムができて、最後まで残ることができました。本当に嬉しいです。Bコート首位決定戦では三東小Pの粘り強いレシーブに『ここまで拾われるの?』と脅威を感じながらも何とか総力で振り切ることができました。が、決勝ではエースを欠いて一方的な展開になってしまったのがちよっぴり残念です。それでも、ママさんになってからバレーを始めたい者ばかりのチームにとつて、四区大会に初めて実力（連盟杯優勝）で出場できたこと、その中で準優勝できたことは、自分たちのバレースタイルを貫く上でも自信になり、今後への大きな財産になりました」と話していました。

スポーツ短信

●市国高校の坂本暁士が400m走でV 第六十八回全国高校陸上競技選手権近畿地区予選が六月十三日から奈良市鴻ノ池陸上競技場で開催され、男子四百メートル走で市国高校のエース坂本暁士選手が四十八秒二の好タイムを記録、接戦を制して頂点に立った。

港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木健一さんがつづいた当地ドキュメント。区内の地名や人名が登場しますが、総じてフィクションです。第一作は、戦争の影も薄れつつあった昭和三十年代の港区で、情に厚い夫婦と一人の青年が紡いだ、小さな宝石のような物語――。

私の大阪港

初夏の大陽の下、大阪港内を巡る小さな船の上で、潮風がおかっぱの髪の間をさあさあ通る抜けた時の心地よさを今も忘れません。あれは昭和三十年代前半、私がまだ小学校にも上がらない、たしか五つか六つの頃でした――。

私の家は安治川にほど近い市立運動場（今の八幡屋公園辺り）の傍にある、粗末な木造平屋建てでした。当時の港区は、戦後すべに始まった「港地区土地区画整理事業」の真ん中で、水害から市街地を守るため、安治川の川幅を広げながら、河底の泥を長大なパイプで流し込んで高上げをしていましたが、その安治川には今のようにな堤防はまだ築かれておらず、川辺には

白い砂浜が広がっていたのを覚えています。近所にはその浜からの潮の匂いが漂っていました。既に五十を過ぎていた父は、大阪港で波止場と本船の間の貨物運搬に携わる解労働者でした。朝早くに家を出、小柄な体を敏捷に動かして働いた後は、まだ明るいうちに帰宅し、日本酒をちびりちびりやりながら肴をつつき、最後に茶碗一杯の飯で胃袋を落着かせてから床につくのが口癖でした。広島県の小さな島の出で、戦前・戦中は外国航路の船員をしていたので、夕飯時なうには「薑一枚くらい」の甲羅を持って大撃を太平洋で捕まえて、茹でて食べた大味でまずかった「なまじ、よへ」その時の、本当かどうかわからないような逸話を聞かされたものです。母とは再婚で死別した先妻との間に、私と十五歳ほど離れた一男がいました。



四十代の母は徳島県の出で、吉野川沿いの紡績工場で働いた後に結婚しましたが、夫は戦死。義父母のものを離れて単身大阪へ出、ある人から子持ちの父を紹介されて再婚したそうです。

ぶっきらぼうな言動の反面、四国八十八力所巡りのお遍路さんが行き来する土地で育つただけに、情に厚く、困った人を見れば周りの目など気にせず、誰にでも世話を焼く癖がありました。また、男家庭の中でただ一人の女児を高齡出産で得たことを内心とても喜んでいたようで、暇があれば、奥の四畳半の窓際の「ミシン」に向かい、太った体を傾けて私のスカートなどを縫っていた姿が今も鮮明です。

その母から生まれた兄一人、それに前述した腹違いの兄一人が私の兄弟でした。二畳ほどの土間には煮炊き用の竈があり、家の一角に設けた小屋では、卵を得るために飼っていた二羽の鶏がせわしげに餌をこぼしていました。

近所には港灣関係の労働者が多く、兄たちと同世代の小中学生が何人もいて、当時、一世を風靡した皇太子と夫妻（成婚のテレビ中継にも縁のない貧しい土地柄ながら、下町らしい活気

彼は両親に頭を下げ、何やら言葉をかけた後私たちを一艘の船へ導きました。全長が十メートルない、本当に小さな船でしたが、前方には小さな運転室がありました。初夏の太陽に甲板が眩しいほど白く光っていたのを覚えています。

運転室にいた年配の船長が、甲板に乗り込んだ私たちに笑いかけ、青年と懇話しに何やら言葉を交わし、それからエンジンを入れました。

その船がどんな仕事のための船なのかは分かりませんが、それでも何となく、青年が父の世話屋じいごかの船会社に就職でき、この船長のもとで一船員として働くようになったこと、そしてこの招待が、苦境を救われ、新たな人生を踏み出すじいごができた青年の感謝の気持ちからいかに大切か、幼い私にも呑み込みました。因みにその舟は、父から後で聞いて知ったのですが、艇を引くタグボート（曳船）でした。

じいごめ、船が岸を離れ、水面を勢いよく滑り出す。両親に挟まれて座の私の顔を潮風がさめっさめなりました。父の艇には何度も乗せてもらっていた私が、他人の船の「乗客」となったじいごを羨望した瞬間でした。風になびく私

の髪の毛を見た両親が感心したように「幸子の毛は柔らかいなあ」「かわるがわるなまぶしぐれ、それをいとも幸せに感じたのを覚えています。」

じいごらへへして青年は、三人それぞれに湯呑みを持たせ、薬缶から何か黒い飲み物を注いでくれました。湯呑みの熱さを掌に感じながら飲んでみるじいごは「あ、強い甘みがありました。それが黒砂糖入りの紅茶だと知ったのは随分あと、小学生になってからでしたが、そんな幼い私にも、その温かい飲み物には青年の感謝の気持ちが籠っている感じがしました。」

そうして大阪港内のどこをぐるぐる巡ったのが、今となってはまるで覚えていませんが、ともかく小一時間の船旅を終えて後、私たちが三人は、岸壁で頭を下げたり手を振ったりを繰り返す青年を何度も何度も振り返りながら家路に就いたのでした。正露丸を飲んで転がっていた

時の、不安で生気のない顔とは違い、青年らしい希望に満ちた健康的な笑顔が、厚近い太陽の下で輝いていました。

——青年がその後、どんな人生を歩んだのか、恐らく両親には何らかの便りもあつたでしょうが、幼かった私には知らされず、今も分かりません。その一方で、私自身は「学問より技術や」との父の思いもあつて洋裁で身を立て、二十代で結婚し、何度も転居を繰り返した後、この港区に戻ってきました。父母は既に他界し、三人の子は不況の中でもそれなりの仕事を得て独立し、それぞれに所帯を持っています。自営業の夫と助け合いながら、既に老境にかかった日々を送る中で、時折じいごの心に浮かぶのは、あの幼き日のさそやかな船旅の思い出です。

当時の港灣の活気は消え、レジマースポットへと様変わりした大阪港ですが、私の心の中ではあの時の中央突堤が、小さな曳船が、青年や船長や両親の顔が、当時のままに甦るのです。幼い頬をなでた潮風の心地よさ、そして黒砂糖入り紅茶のちょっぴり焦げた甘みと共に——。



みんなのお米が守ってきた！

富田和子著 『お米は生きています』

「お米が唯の食べ物や商品でないことが分かりました」「二十代女性」「日本の農業や自然を壊して平気な政治家に読ませたい」「六十代男性」。自然と人間の関わりの大切さを訴えてきた

富田和子さん立正大学名誉教授に下る『お米は生きています』**＝賞＝**は、次代を担う子供たちに「日本人としてのお米とは何か」「今の日本はこれでよいのかを考へてもらおう」と書かれた作品です。一九九五年に刊行され、今年四月、装い新たに再出版。産経児童出版文化賞大賞を受賞。港区でも読まれ、反響を呼んでいます。

著者はまず簡潔な「米への年表」を示してこの書が「日本人とお米との長い付き合い」を辿る本であることを示唆。その上で、「お米の章では、大陸から米が伝わった歴史や穀類として他に類のない特長を、「国のお米」として、米作が壮大な共同作業であり農業が全ての文明の

母であったことを、「ため池と田圃」では、ため池はもとより古墳や木造建築や都市までもが米作から生まれたものゆえに、「まじりがさだつては、祭りや相撲などの諸行事も米作がルーツである」とを解き明かしています。

また「平野をひろげる」では、米作の必要から畠れ川を抑え海を干拓していった歴史を、「五庄屋の話」では、田入水を引くため命がけで堰を築いた農民の物語を、「森林をひろげる」では、米作が荒地を潤わせた海岸や森林を守ってきたメカニズムを、「風景をつくる」では、稲作が四季の風景や各地の風習を育んできた関係を、「新しい風景」では、農業人口が減り食糧輸入大国になった中で合鴨を使った稲作などの試みが始まっている様子を、それぞれ紹介しています。



そして「あじがき」では次のように日本の現状に警言を發しています。「米と日本人とは母と子のように深いきずなを結ばれています。日本の文化は米のうりの上にたぎります。山や川の自然も、農民により、米のうりを通して守り育いられてきたのです」「そのことを忘れ、米を単なる商品として扱い、工業とも、外国の農業とも競争させた結果、ついに日本農業を有史以来の危機に追いこめてしまったのが、さきの市場開放でした。日本はすでに十分、世界一の食糧輸入大国でありながら、このこえなお減反をさせ、輸入をすすめる」といわけです。「いまこそわたしたちは、人間が生きるとしていつの原点に立ちもどり、大地に即して自然を見、歴史を見なおしたいと思えます」。

平易な文章表現に加え、大庭賢哉さんの挿絵(茂原敬之さんによる図表、各自治体などから提供された豊富な写真が理解を深めてくれます)。

(株)講談社「青い鳥文庫」の一。新書判一九二頁、六四〇円十税。港区ではオリオン書房(八幡屋一六・一〇一、TEL・FAX六五七二一・二一〇四)などで取り寄せてもらえます。

独特のレトロ感で魅了

山口ももえさんから 通天閣劇場で



→ 独特のレトロ感で聴衆を魅了した舞介子(写)

真は蘇州夜曲を歌い山口ももえさん(右)の
TOKYO(2) = 6月18日 通天閣歌謡劇場

独特の不思議なレトロ感で魅了……。八幡屋
在住の不思議なニュージシヤン・山口ももえさん
と西宮市在住のニュージシヤン・Chomote
んの女性「アユオ」舞介子が六月十八日、同月
中の閉鎖が決まっていた「通天閣歌謡劇場」で
懐かしい昭和歌謡などを披露、詰めかけた大勢
の聴衆から喝采を浴びました。

♪『蘇州夜曲』『星の流れに』など

通天閣の歌姫こと叶麗子さん、上方漫才界
の大御所・横山ひろしさんから八組が並ぶプログ
ラムのトップにも連ねた舞介子は、昭和初期
のカフェの女給さんのようなレトロ感溢れる着
物姿で登場。『蘇州夜曲』（一九四〇年 渡辺は
ま子・霧島昇）を皮切りに『星の流れに』（一九
四七年 菊池寛子）『カモナマイハウス』（一九五
一年 江利チエミ）『明日があるさ』（一九六三年
坂本九）と、中高年なら誰もが知っている昭和
の名曲を、温かみのあるゆるやかな歌謡で、
コミカルながらちょっぴり妖しいムードの踊
りもまじえて披露しました。

年配者には懐かしく、若者には新鮮な、独特
の不思議なムードが、演歌色の強い同劇場のフ

← 年配者には懐かしく、若者には新鮮な、不思
議なムードで会場を席巻した舞介子



スト近いステージをひととき席巻しました。会
場には舞介子自らのファンも目立ち、舞台後
の楽屋周辺では和やかな交流が見られました。

♪ シングルでも音楽活動

山口ももえさんはシングルでも音楽活動を展
開。独特のハスキーボイスとギターやアコーデ
オンの伴奏で郷愁誘う創作曲や懐かしい童謡・
唱歌・昭和歌謡などを歌い、ミニライブの路上
ライブも数年継続。寄席でのアコーデオンの伴奏者
やお茶子としても活躍中。舞介子は、やはりシ
ングルでも音楽活動を展開するChomote
とライブなどで意気投合し、今年になって結成
した「アユオ」。同劇場への出演は今回三度目。

知的で温かなデザイン

高田雄吉さん「ロゴ展」好評



「温かさで知性を感じられる」と好評だった高田雄吉さんの「スーパーロ」展5月6月中
中央区の画廊&喫茶「フィット・カフェ」中

港区生まれ・在住の世界的グラフィックデザイナー・高田雄吉さん(60)が六月二〜十四日中央区の画廊&喫茶「フィット・カフェ」で近作展「スーパーロ」展5月を開幕しました。

◆企業や学校の姿勢や理念を表現

展示されたのは、企業や学校や団体などのロゴ(社名やブランド名を印象的にデザイン化したもの)をテーマに、その活動姿勢や理念を視覚的に表現したポスター的な作品十一点。

例えば、国際知財事務所を扱った作品では、緑系を基調としたハート形の中にネットワークを表わすラインを白く抜くことで、樹木が大地に根を下ろすように、知財も社会に根を下ろして役立つよう取り組む同事務所の「誠意」がシンボル化されていました。

また、「自立」「共生」「臨床の知」を教育理念に掲げる京都橘学園を扱った作品では、茶系の中に白梅・紅梅を非対称ながらバランスよく配ったデザインに、琳派(江戸中期の画家・尾形光琳)の画風・様式を伝える流派の伝統と新しさの融合が感じられました。

◆船場カリーやフライントンホテルも

「知財が社会に根を下ろして役立つように」という国際知財事務所の活動姿勢「誠意」を表現した作品①で、京都橘学園の教育理念「自立」「共生」「臨床の知」を表現した作品②



また、大阪名物「船場カリー」を扱った作品では、黄色を背景に、代表的メニューである「ジネギカリー」を食へすには死ねないというファンのお気持ちを斜め表記の英語で代弁した大胆でユーモア溢れるデザインが印象的でした。

また、フライントンホテルを扱った作品では、頭文字「B」、ナンバーワンを表わす「1」、成長を表わす「↑」を「アフォルメ(変形)して組み合わせた」デザインから、「↑」のスピード感と「快適」という同ホテルのコンセプト(理念)が伝わってきました。

◆情報技術やかははブランドも

また、書籍からインターネット情報を収集する技術「シシバテ」を扱った作品では、宇宙の膨大な情報を代表させるための「真つ黒な宇宙空間を背景に地球や惑星の直径や回転周期などの数字を整然と並べたデザインから、この技術の壮大な可能性が伝わってきました。

また、メード・イン・ジャパンのかげんブランドプラットフォームを扱った作品では、鮮やかな赤の中に、デフォルメした頭文字「P」を白く抜いた斬新なデザインで、その機能性・堅牢性^{タフネス}



→インターネット情報技術「シシバテ」の無限の可能性を表現した作品①の「バック」(巻)

ブランド「プラットフォーム」の機能性・堅牢性・パフォーマンス性を強調した作品②

性・パフォーマンス性を強調していました。

◆照明器具や健康ブランドも

また、「LED照明器具の成長企業」ブランド「シヤパン」を扱った作品では、変化していく光の三原色の線を縦に無数に並べる単純なデザインからその理念と躍進性が伝わってきました。

また、エプソンなどに含まれる天然成分「コイタン」製品のブランド「ポーセラ」を扱った作品では、濃い緑をバックに、「頭文字「P」と植物を象徴する「生」を融合させた多数の文字を白や黄色に抜くことで、生命と自然への畏敬を強調していました。

◆「優つた」「新しい」「爽やか」

鑑賞した四十代女性デザイナーは「高田さんの作品はじつは温かみ、優つた、それでいて知的で新しいものに惹かれます」。五十代の男性経営者(建設業)は「業種が違つので難しいことばかりかもしれませんが、色遣いが素晴らしい、温かみを感じます。こちらの「P」も頼せうかと思っています」と話していました。

◆「ニューヨークから港区までを舞台に」

高田さんは一九五二年八幡屋生まれ。八幡屋

「P」や環境ホスターなどで活躍する港区生まれ・在住の世界的グラフィックデザイナー・高田雄平さん(写真)は二〇一〇年のアート展「

田雄平さんの写真



小、港中、市岡高、大阪云々卒。ニューヨークから港区までを舞台に、ロゴデザインや環境保護ホスターなどで幅広く活躍。大塚化学「マッチ」のC-1(企業理念を統一的・総合的に発信する手法)、ブライトンホテルやダイワハウスマシヨンのV-1(企業理念を視覚的に統一して発信する手法)、愛知万博誘致や大阪府ドーンセンターやりなぐりゲートタワーのシンボルマークデザインなども手掛けてきました。(尚)C-1研究所(中央区内本町一・四・三三・六〇三) ☎ 六九四九・〇八五三(代表取締役)。

ライブ情報

●八幡屋出身ロックドラマー 桐田勝治さん きりたかつじ 日

本のビジュアル系ハードロックバンドのトップを走り続ける人気バンドに所属。周りを元気づける灯台のようなミュージシャンに「と演奏に磨き。港中学校出身▽七月二十日(七十八時から江坂ミュージズ)▽八月十七日(七十七時から大阪Bー入場可)▽八月十七日(十七時時から大阪BーG C A Tで開催の「オオサカバトルロイヤル」にギターとしてゲスト出演予定。出演は他にSadie、アライ、D・V、DENZERT。前売四千円。問い合わせは☎六五四二二・三三三三ハフエイストコミュニケーションへ。



↑桐田勝治さん(左)とアライさん(右)

●三先のフォーク歌手、ペドロさん 切断フラザ

ーズ(左手親指切断の共通体験を持つ)三人ハド、ボン、チャンで二〇〇六年に結成)のリーダーやソロで温かな雰囲気のアレンジアルバム・オークソング▽毎月第一・三木曜各二十時からザ・セラー(中央区西心斎橋一・一七・二三新スマイル地下、☎六二二二・六四二七)で開催のフォークライブにレギュラー出演▽毎月第一火曜二十時からかつおの遊び場(中央区宗右衛門町四・五宗右衛門町センタービル二階、☎〇九〇・五八八・七〇二五)で開催のフォークライブに切断フラザーズとしてレギュラー出演▽毎月第一火曜二十時からロージー(中央区西心斎橋一・九・五田三ツツ寺会館地下二階、☎六二二二・二九九九)で開催のノンジャンルライブにレギュラー出演。

演劇ガイド

●あながいおまる一座『八月の光の中で』被爆電

車の少女たち』 波除の自由空間「石炭倉庫」

を拠点に庶民の優しさを描き、社会的メッセージを込めた芝居を演じ続ける同一座「あながいおまる」

スタジオ公演。原爆をテーマに、忘れてはならない昭和の真実を描く。一昭和二十年八月八日

の早朝。この日も広島電鉄家政女学校の生徒たちは紺色の乗務服を着て寮から車庫へ向かった。召集で男手が無くなったので、女学生が運転を担っているのだ。広島や島根の農村出身者が多く、まだ子供っぽさが残る十四〜十八歳の少女たちだった。午前八時十五分、快晴の夏空に原子爆弾が炸裂。一瞬の閃光、轟音、焦熱と共に広島街はなくなり、女学生たちの青春も消えた。原作は『電車を走らせた女学生たち』広島電鉄家政女学校の記憶』。演出：あながいおまる。協力：広島電鉄株式会社・河野弘。八月三日(十三時半)、十八時、四日(日)十一時、十四時の四回。前売：千八百円、当日：三千二百円。学生・子供無料(要事前申込)。問合せ：申込は会場の石炭倉庫(波除八・五・一八、JR并大町駅から国道四三三を北へ直進、安芸川堤防架当の右すぐ。☎六五八一・〇六八四、FAX六五八一・二六七〇。チケット専用フリーダイヤル〇二〇・三三四一・三九九。Eメール：theadress@seek-it.co.jp)。入。

平和のため

戦争体験

語り継ごう

今月の語り部

猪伏昌三さん(元田中住民) ③



前年まで 昭和四(一九二九)年、北朝鮮の元山に生まれた私は、中国大陸での戦火を背景に、満州(現：中国東北部)東部の町・図們、次いで延吉で育った。米英を相手に「大東亜戦争」が始ま

る中で中学校に入学。戦争一色の学校生活を送った。昭和二十(一九四五年)八月、突如のソ連参戦に緊張が走り、十五日には玉音放送が流れた。敗戦による無政府状態の中、日本人街は現地人の略奪と放火で廃墟に。延吉小学校での避難生活が始まった八月十八日、ソ連軍が進入してゐる場面に出口をわした。〈本文は回想録『平和の空下 永遠に』から本紙が抜粋・再構成〉

ソ連軍進入で一気に緊迫

悲惨極めた女性への凌辱

進入してきたソ連軍戦車の砲身には朝鮮人の子供が寄り、「万歳 万歳」と小旗を振っています。当時、ソ連が世界に誇る戦車だけあってさすがに威圧を感じました。キャタピラの幅車体の堅牢さ、重量もかなりのもので、その地響きは地震を思わせました。十数台から二十台ほどが延吉橋を渡り、堤防上を西へ進んで河川敷へ降り、そこで駐屯するようでした。

戦車と並んで歩兵も道路の左側を徒歩で南下してきました。一列縦隊だが途切れ途切れで、

みな埃にまみれ、疲れ切っている様子でした。が、そんな中で目についたのは、背中のマンドリン銃の立派さでした。一旦緩急あればすべ身構えられるよう、掌尾板を上へ、銃口を下に向け、左肩から右脇へ下げていました。弾巢は映画フィルムを入れるような丸い缶で、七十二発ほどの弾が入っているといわれ、砲身は短いが、外側を冷却するために穴の開いた鉄板の覆いがありました。こんな武器を使われてはとも日本が勝てる訳はない、と思ったものです。入場の様子をしばらく眺めていて気付いたのは、彼らは多種多様な民族の混成軍のようだったということです。白人系に黄色系、背の低い者もいれば大柄で立派な体格の兵隊もいました。白人は直射日光に弱いのか、八月の太陽光線をまともに受け、顔から首筋にかけての肌が赤く焼けて痛々しかったです。

服装はまちまちで、ベレー帽を被っている者もいれば、何と日本の軍服を着用し、牛革のバンドを締めて編上靴を履き、日本軍人と見紛うような兵隊もいました。手の甲に刺青を入れた連中もいて、「第一陣は囚人で、あとから正規

軍が入場する」と誰かが言っていました。

◆なぜアメリカ車がソ連軍に？

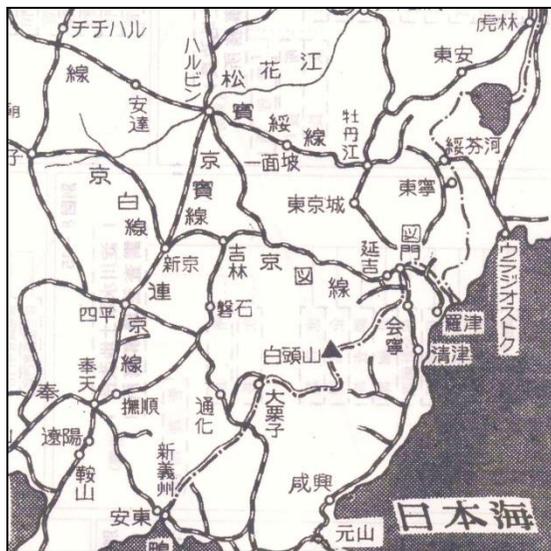
戦車と歩兵に続いて入場したのは四輪駆動のジープに乗った上級兵でした。十輪の大型貨物自動車もありました。車体の「USA」マークから、それらが米国製と判りました。

「これについては、のちに思ったとおりですが、なぜこれだけ多くのアメリカ車がソ連軍にいったのか。ヨーロッパ戦線からシベリヤ鉄道で満州へ来たのが、それとも直接アメリカから沿海州に陸揚げされたのが。八月九日に米軍が長崎へ原爆を投下し、その日の未明にソ連軍が進攻を開始した事実とも合わせ、連合軍のこつとした動きが読めなかったことに対して、関東軍はじめ軍の参謀本部には何らかの「コメント」があつてもよかつたと思います。戦場で散り、靖国で再び会うことが当時の青年に教え込まれた最高の理念であつたことを考え合わせる、こつとした軍上層部の科学性なき戦争続行の愚かさ、改めて胸を突くのです。

◆「Madam Taitai」の悲劇

それはいもかへ、私は一時間以上もソ連兵の

←満州部分図。牛誕地の元山、少年期を過ごした図們、引き揚げてきた延吉などが見える



動きを見ただあと、ようやく延吉小学校の講堂へ戻ってきました。そして、その晩から新しい寝起ぎが始まるため、それぞれの家族の間の仕切りを決めて、荷物の整理を始めていた時でした。突然、ソ連兵一人が入ってきました。初めて見た兵隊に皆は驚き、どう対処すべきか、戸惑いと恐怖に冷水を掛けられたようになりました。彼らは入り口で講堂内をしばらく見渡した後、一人が天井に向かって自動小銃を一発ぶつ放し

ました。大声で何やら喚びしていますが、意味が解りませぬ。

居留民団の代表がそばに寄って行きました。手話と共に「ヤポンスキー（日本人）」「カレスキー（朝鮮人）」「キタユスキー（中国人）」といったロシア語が飛び交い、彼らが欲しいのは時計に小物、それに差し迫つての要求は「ヤポンスキー マダムタワイ」つまり日本人の女性だと判りました。居留民の世話役が「彼らは女性が良いとの要求なので、この中で犠牲になつてもらえる方はおられませんか」と大きな声で呼びかけました。すると花柳界にいたらしい一人の女性が立ち上がり、意を決したように皆さんのためになるのであれば、私が行きます」と申し出たのです。ソ連兵は彼女の手を引き、言々として講堂を出て行きました。

講堂内は一気に緊迫しました。女性たちはハサミやバリカンで髪を刈り始めました。が、その跡は不自然に青く、顔に鉛筆を塗つても、とても男性には見えません。そのため、その後たびたび訪れたソ連兵は、女性とおぼしき者の手を触り、胸をなでては女と確認し、連行してい

ったのです。

その日、一層目に入ってきたソ連兵たちは時計を要求しました。既に他の收容所でも調達したと見え、左腕に三つ、右腕にも二つ巻いており、「タフイン」「タフイン」と指さしながら、日本人一人ひとりの腕を握っては首無を探っていました。そうして取り上げた時計を腕にはめては耳に当へ、「音がしなくなったよか言っている外し、捨つてしました。それを見て、「教育も受けていない、こんな癡猛な連中に負けたのか」と情けなきが込み上げました。彼らは帰りにやはり文を要求しました。今度の志願女性は看護婦さんでした。悲壮な面持ちで連れて行かれるのを、皆が涙で見送りました。

それから二時間ばかりして、先の花柳界の女性に戻ってきました。見ゆから「ほろほろ」といった様子で、周りの人たちが彼女の心の傷を癒やそうとするかのように、「こゝろに慰めの声をかけている光景が痛ましく映りました。

ソ連兵で、延吉駅から延吉橋にかけての河南地区にはポプラ並木の美しい道路がありました。が、日中は薄暗いから、ソ連兵はソ連兵をた

←戦後の延吉市・河南地区。ソ連兵に凌辱された女性たちが集団首つり自殺をしたのは、橋の向こう側へ通じるポプラ並木の道路だった



人はこの女性が申しこられたようにそこへ集まり、「もう帰る所もない。一緒に人生を終わります」と集団首つりの自殺を図ったのです。

その中には、私たちのいた延吉小学校から連行

された看護婦さんも含まれていたといえます。その中でただ一人、飛驒高山の女性は死に切れず、満人の家の豚小屋に隠れて一夜を過ごし、明けの日にその主人に救われて残留婦人になったと後で聞きました。

思えばこの時、ソ連兵に凌辱された女性は一体どれだけいたことでしょう。戦争の悲惨が最も深く刻まれるのは、いつの世にも女性であることを骨身に知らされた出来事でした。

◆收容所から我が家へ

八月二十日。延吉小学校の講堂は小康状態に入っていました。そこで、自宅に戻る状態にあるかどうかを調べに行き、それが可能な家族から順次、静かに出て行きました。が、入れ替わるように入ってきた地方からの避難者が、すべしんの隙間を埋めました。

幸い、市の中心部に近く、満人街にあった我が家はあまり荒らされてないことが判り、一週間ばかりに帰宅できることになりました。とはいえ、その收容所生活からの解放は、同時に引き揚げまでの筆田に及んで難く忍従の二年間の始まりをも意味していました。(つづ)

ミニ文化案内

●交通科学博物館・夏休みイベント「TRAIN MODEL COLLECTION」交通科学博物館の模型たち」 七月二十日～九月

一日。開館以来收藏してきた鉄道模型の中から約一〇〇〇両・二〇〇種類を「クラシック」「外国軍用」「サイズズなど様々なカテゴリー」に分けて紹介。このうち「デザイナーコレクション」ではスタイリッシュなイケメンなどの部門を設け、E259系「成田エクスプレス」や「リポート」「ゆびいんの森」などを展示。「ヒストリーコレクション」では創業期の一等機関車から国鉄時代の特急列車、現在活躍する通勤列車や特急列車までをHOGゲージで展示。「ブレードコレクション」では新幹線のO系から最新型までを様々なサイズスの模型で紹介し、HOGゲージによる往復運転も▽他に「モデルシップ友の会作品展」(紙類だけで作成した緻密な船のペーパークラフト作品展。海上保安庁の「りゅうきょく」など「こつや」などの大型巡視船や巡視艇、測量船、また商船や貨物船。さらには大阪港をパシフィアンの小型巡視艇のジオラマも)。八月三十一

日まで開催中)「おひし列車と貴賓室」(皇族などが乗車されるおひし列車や貴賓室を紹介。八月十八日まで第八室で延長開催中)「11500系新幹線運転会」(七月二十七④、二十八日⑤の十時半～十六時に屋外展示場の11500系新幹線運転線で。途中休憩あり。雨天中止)などの催しも▽十七時入館。月曜休館(祝日なら開館し翌火曜休、火曜も祝日なら振替休なし、春・夏休みは開館。高校生以上四百円、四歳～



中学生五百円。JR弁天町駅すぐ。☎六五八一・五七七一。

●港図書館 ①図書展示「こどものほんだな」

展 八月三十一日まで開催中。昨年出版された子どもの本の中から図書館おすすめの本を展示 子どもも大人も楽しめる本が一杯②夏のごども会 七月二十七日(土)十時半～十一時半に港区民センター階会議室「橘」で。パネルシアターや大型絵本の読み聞かせ。申し込み不要。当日先着四十人③あかちゃんのおたのしみ会 毎月第一金曜日(八月は 日)の十一時～十一時半、じゅつたんコーナーで。赤ちゃんと保護者を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるよう工夫。申し込み不要④夏休み工作教室 八月七日(水)十四時～十五時半に港区民センター階会議室「梅」で。木の実や枝、葉っぱなど自然の材料を使って工作。七月十九日(金)から申し込み受け付け。小学生以上先着 二十名⑤おたのしみ会 毎週水曜十五時半～十六時、じゅつたんコーナーで。幼児を対象に、絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、手遊びなど。申込不要⑥「11 図書展示」おめでとう世界文化遺産登録、

→「交通科学博物館の模型たち」に展示予定の

模型(左)、「モデルシップ友の会作品展」に展

示予定の測量船「昭洋」④

富士山と登山の本「展」七月三十一日まで開催中。浮世絵に描かれたり、万葉集に詠まれたり、遥か昔から日本人にこよなく愛され、このほど世界文化遺産に登録された「富士山」に関する本を展示▽**66576・1346**。

●**関西フィルハーモニー管弦楽団「パリに憧れた作曲家たち」** 同楽団の首席指揮者・藤岡幸夫さんがクラシック&オーケストラのライブ感を伝える人気シリーズ「ミート・ザ・クラシック」の二十七回目。出演は指揮&お話し：藤岡幸夫さん、サクソフォン：須川展也さん、オルガン：片桐聖子さん。演奏曲は、第一部「須川展也との



→**関西フィルハーモニー管弦楽団の藤岡幸夫さん**

(©SHINYAMAGISHI)

←**須川展也さん①と片桐聖子さん②**



魅惑のステージ」ではアンダーソン：舞踏会的美女、ピアソラ：エスクワロ（鯨）、ピアソラ：オブリビオン、ピアソラ：リベルタンゴ、ガースユウィン／狭間美帆編曲：すべてを知っている場所」からの便り、ガースユウィン・メロディーズ「オーケストラ版世界初演」。第一部「絢爛豪華―迫力のオルガンサウンド―」ではサン＝サーンス：交響曲第3番八短調作品78「オルガン付」。八月十一日(日)十五時からいずみホール(JR大阪城公園駅、地下鉄OBP駅下車)で。一階席四千円、二階席二千円、学生席千円(十八歳以下)、一階席のみ。無料託児サービス申込締切：七月二十七日(先着二十名)。66576・1346。

●**井天町市民学習センター「3・11被災地の**

いま。フォトジャーナリスト小原一真さん

写真展とお話し」震災から一年以上を経たが、被災地はまだまだなっているのだそう、人々は何を感じているのだろうか、被災者でありながら原発事故の収束作業に携わる作業員は、放射線量が気になる福島のごどもたちの日常は。フォトジャーナリスト小原一真さんの写真と講演から、私たちにとって大切な「いま」と「これから」を共に考える。小原さんは一九八五年若手県生まれ。スイスの写真通信社KEYSTONEのパートナーフォトグラファー。震災直後からフリーランスとして活動を始め、東日本大震災、福島第一原発事故の取材をまとめた『R



→**小原一真さん①と展示写真の②**

est Beyond Fukushima ma 福島の彼方に』を出版。『Huffington post』にて「誰か福島第一原発を収束させるのかー見えない人間」を執筆中。http://kazumaobara.com▽講演会は八月十日(土) 十四時〜十五時半に同センター講堂で(入場は十二時半から)。参加費千円。先着八十人(要予約)▽写真展は七月十九日(月)〜八月十一日(日)の各九時半〜二十一時に同センターロビーで(日曜日は十八時半まで、八月七日は休館日)。鑑賞無料▽問い合わせは主催の大阪市立弁天町市民学習センター(〒552-0007 大阪市港区弁天一・二・三・七〇オーク2番街七階 TEL:〇六・六五七七・一四三〇・FAX:〇六・六五七七・一四三三)▽講演会の予約は①電話②ファックス③いちよ(ネット)(www.mannabi.city.osaka.jp)。

●弁天町市民学習センター「オーク弁天寄席・納涼スハシヤル阿波踊り大会」 八月十八日

(日) 十三〜十五時、オーク広場(オーク2001階)より。参加無料。申込不要。おなじみ「オ

↑笑福亭學光さんと旭堂南麟さん



ーク弁天寄席の真夏の特別イベント。笑福亭學光さん(徳島出身の落語家)と旭堂南麟さん(大阪出身の講師)率いる「はなしか連」をはじめ、「なごわ連」「楠公連」「大阪天水連」(予定)「神戸六甲連」「弁天寄席連」「神戸ちのぞ連」など総勢百数十人が元気一杯に踊る▽同日十時〜十一時半に同センター(オーク200七階)で体験教室「親子で阿波踊り体験」あり。参加費無料。先着八十人。申込は電話で▽主催はオーク弁天寄席の会と同センター。ORC200店舗会が協賛。マジオ大阪が協力。〇六五七七・一四三〇。

●弁天町市民学習センター「夏休み☆親子おでかけシネマ〜らら☆ラカルト」 エリック

カールのアニメーション『はらぺこあひお』

『ハハ、お月さまとて』や、知る人ぞ知る名作『だんまり』の『おちや』など親子で楽しめる映画を贈る。八月十四(水)、十五日(木)、十八日(金)の各十一時と十四時(計六回)。鑑賞無料。各回当日先着百名。小学生以下は保護者同伴。入場は二十分前から。上映予定作品は他に『だんまり』『おんぎ』『おちやまげカメレオン』『うたがみえの きんぎょ』。〇六五七七・一四三〇。

●ガットネロ 市岡在住の社会派シャンソン歌手・松浦田美子さん主宰の音楽喫茶。毎月様々な企画。①クラシック・カフェ第二十五回(八月一日(金)十九時)。「近代音楽の魅力!」と題し、大町剛さん(チエロ)と宮崎剛さん(ピアノ)がプロット、プロコフィエフ、フランクなどを演奏。会費 千円(定員十五人、要予約)

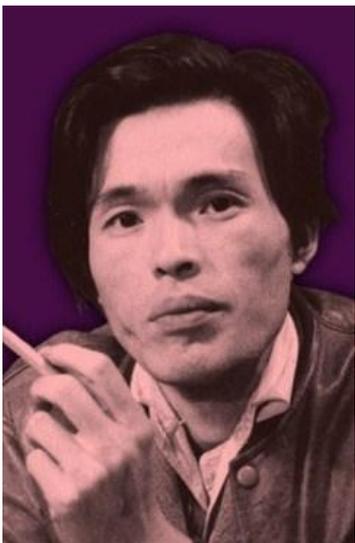


↑大町剛さんと宮崎剛さん

②アクト・ライブ第 回(七月十七日)十九時。出演はウエムさん(ギター) + 加藤コウジさん(ベース) + 中條タケシさん(ピアノ) + 服部道雄さん(うた) + 高崎おさむさん(ドラム)。チャージ千円▽ガットネロは天王寺区上本町六・二・三七、地下鉄谷町九丁目駅
①出口、 ☎六七六七・〇〇二一。

●シネ・ヌーヴォー「生誕百年記念 織田作之助と仲間たち」 大阪を代表する作家・織田作之助

は一九二三年十月、大阪市南区(現天王寺区)に生まれ、一九四七年、三十三歳で死去。庶民の喜怒哀楽を描く名手であり、今なおオタサクの愛称で愛され続けている。太宰治、坂口安吾



→庶民の喜怒哀楽を描く名手として今も愛される作家・織田作之助。今年、生誕百年を迎える

↑しっかりと善者とダメ男の哀歓を描いた織田不

朽の名作『夫婦善哉』⑤と、人力車夫の根性を讀えた織田の傑作大阪もの『わが町』



石川淳と共に「新戯作派」「無頼派」と呼ばれ、

映画監督・川島雄三と共に「日本軽佻派」を

結成。代表作に小説『夫婦善哉』『世相』『土曜

夫人』、評論『可能性の文学』など。現在、大阪

文学振興会により「織田作之助賞」が設けられ

ている。今年の生誕百年を記念して、原作の全

作品と共に彼の「仲間たち」にまつわる作品

合わせて三十八本を特集上映。オタサク・ワー

ルドの魅力と大阪文化の土壌に迫る。上映期間

は七月二十日〜八月二十日。上映作品は、①織

田作之助原作作品②『還つて来た男』『船場の娘

より忘れのい人』『夫婦善哉』『わが町』『嵐火』

『新・夫婦善哉』②川島雄三監督作品③『明日

は月給日』『洲崎ハミダイス 赤信子』『銀座 十

四帖』『風船』『暖簾』『貸問あり』『赤坂の姉

妹』より夜の肌』『女は度々まわる』『特急に

つぽん』『しんやかな獣』③小村昌平監督・

脚本作品④『豚と軍艦』『工口事師たち』より

人類学入門』『経営学入門』よりネオン太平

記④藤澤桓太郎原作作品⑤『新雪』『東京マダム

と大阪夫人』『花粉』より空かける花嫁⑥『長

沖一原作作品⑦『お父さんはお人好し』『お父

さんはお人好し 花嫁善哉』⑧秋田實原作作品

⑨『漫才長屋は大騒ぎ』『漫才長屋に春が来た』



→龍馬と女将の淡い恋を描いた織田最高作の一

つ『嵐火』⑤と、柳吉・蝶子の後口譚でラスト

の口詞が原作と対をなす『新・夫婦善哉』

←山崎豊子原作を川島雄三が映画化した昆布問

屋の年代記『暖簾』④と「アチャコ」の芸が光る人情喜劇『お父さんはお人好し花嫁善哉』



⑦妻・織田昭子原作作品『マダム』⑧坂口安吾原作作品『負けつれマセン勝つマアハ』『不連続殺人事件』『白痴』⑨太宰治原作作品『グッバイ』『女性横断法』『真田玄蕃士の額』『フイヨンの妻 桜桃とタンポポ』⑩林芙美子原作作品『めし』⑪海外作家原作作品『赤と黒』『カラマーゾフの兄弟・完全版』。当口一般千四百円。前売五回券(五千円)、期間中フリーパス券(三万円、限定二十枚)など割引券あり。上映時間など詳細は同館(地下鉄九条)⑥出口歩三分(六五八二・一四二六)へ。

ひとくちPR

(1行)税込1000円

●何でも書きます、まとめます 手紙・案内・報告・宣伝・司会等の文案。自分史・社史・団体史等の聞き書き。新聞・広報・書籍・会報等の取材・編集。☎六五七二・四八三六港新聞・飯田編集事務所。

●アルバイト急募 週一回の新聞配達と月一回の集金を都合のいい時間に。港民主商工会(分)☎二一〇・二六、☎六五七二・七八六七。

●放課後・春夏冬休みは学童保育へ 入所見募集。見字無料・体験OK。家族的雰囲気。区内に二カ所。☎六五七五・〇三三五ありんこ。

●ボクササイズでシエイプアップ! 女性も小・中・高生も楽しく練習。親切指導。家族的雰囲気。月会費五千円(無期限十枚)づりチケット五千円。入会金二万円を現金半額。練習日は月・水・金の十九時半〜二十一時半。港ボクシングジムは三先二・一三・九(地下鉄朝潮橋駅南側の歩道橋すぐの裏通り)。http://ameblo.jp/minatogym/

読者プレゼント

※いずれもハガキに当日の感想とプレゼント名を書いて20日必着で港新聞へ。

●交通科学博物館(三三文化案内) 招待券をへア2組に。

●関西フィルミート・ザ・クラシック(三三文化案内)招待券をへア1組に。

●あながいおまる一座『八月の光の中で』(演劇ガイド)招待券をへア2組に。

●児童書『お米は生きている』(読者が推せん)図書カードを1名様。

歴史の親の文章にまどめ贈り物に!

お話をききとり、冊子にしてお渡します。

戦中は勤労奉仕に明け暮れながら空襲下を生き延び、戦後は家政婦として病弱な父を支えながら私たちを世に出してくれた母。その人生を今のうちにまとめてやりたいと、港新聞さんにお願ひしました。写真も豊富に入れた冊子の出来に満足しています。(60代男性)

400字(原稿用紙1枚)で千円が標準料金です。

★文書全般の代筆も承ります★

港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636